

## 北条義時の足跡を辿る鎌倉散策

2022.4.19

布施 克彦 記

4月19日に実施されたこの企画は、その9日前の4月10日から、参加申し込みの受付を開始した。筆者は申し込みの受付に忙しく、翌11日の午後には定員の30名に達してしまった。その後申し込まれた会員の方々には、申しわけなかったがお断りせざるを得ず、現在NHKテレビで放映中の大河ドラマ、「鎌倉殿の13人」の影響の、予想以上の大きさを知った。

実施する日の天気予報が頻繁に変わり、気を揉んだが、幸い当日は天気にも恵まれ、参加された会員の方々には、新緑の中での鎌倉歴史散策を楽しんでいただけたと思う。

筆者は北条義時の知識に乏しかったが、今回の探訪企画の策定に当たり、この人物について新たにいろいろと知ることができた。一般的にも、義時は地味な存在と言える。父の北条時政、姉の政子、そして嫡子の北条泰時と比べても、歴史の節目における存在感がやや希薄だ。今年NHK大河ドラマの主役になったことで、急に脚光を浴びた人物と言える。

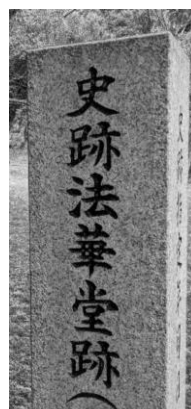
それでも北条義時についての知識を得るほどに、彼が鎌倉幕府の初期の変遷に、重要な役割を果たしたことが分かってきた。

特に源頼朝の死後、有力御家人を次々と排除し、父の時政を追放し、承久の乱に勝利するなど、鎌倉幕府における北条執権の権力確立までの過程で、義時は実質的な主役を果たしていた。

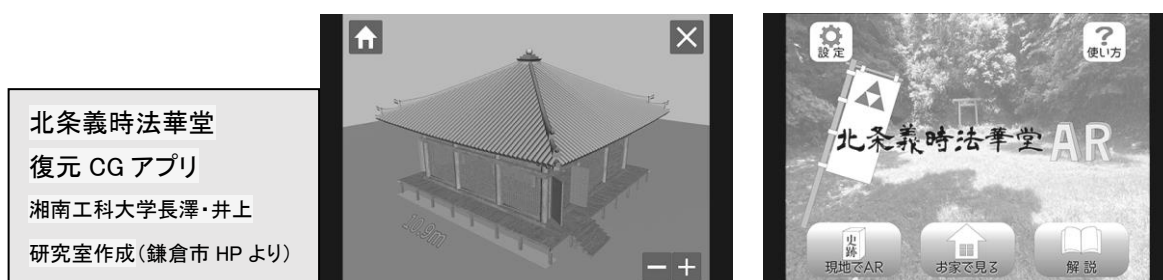
大河ドラマで、小栗旬が演じるころの北条義時は、武将としてはやや線の細い、善良な人柄に描かれている。しかし筆者が今回得た義時についての知識からは、計略に長けた強かな別の人物像が浮かんでくる。

弱肉強食、権謀術数が渦巻く中世の鎌倉を、善良だけの人間が生き残っていけるわけがない。今後大河ドラマの展開の中で、北条義時の人物像がどのように変わっていくのか。筆者のみならず、今回の探訪に参加された会員諸氏も、興味を持たれたのではないだろうか。

(探訪参加者総数  
39名(役員含む))



北条義時・法華堂跡



北条義時法華堂  
復元 CG アプリ  
湘南工科大学長澤・井上  
研究室作成(鎌倉市 HP より)